

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970400354		
法人名	医療法人 社団 桑崎会		
事業所名	グループホーム エルーセラ		
所在地	栃木県佐野市免鳥町496		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・エルーセラとはギリシャ語で「自由」という意味である。 ・1,500坪の広い敷地内で、毎日草花等、自然に囲まれながら散策できる。 ・毎月第3金曜日には、利用者の嗜好にそったバイキングを実施している。 ・利用者の嗜好に合わせて、外食、誕生会、料理作り等を実施している。 ・春には、敷地内や外部の桜の名所等でお花見を実施している。 ・毎年秋祭りを実施し、利用者、その家族、職員だけでなく、地域の方々にも参加して頂いている。 ・利用者の希望に沿って、利用者の手で野菜や果物を育て、収穫している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成26年10月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな広い敷地内を利用者が自由に散策できる環境が整備され、「各々が毎日楽しく、ゆとりある生活を生き生きと暮らせる支援をしていく」という事業所の思いが、利用者の表情や笑顔に表れている。「個別ケアの重視」という観点が理念に掲げられ、開所から約15年という経験や実績の中で、管理者を中心に経験豊富なスタッフが主になり、ケアの本質について繰り返し取り組む後ろ姿が後任を育てており、職員間にも笑顔が輝いている。 ・食を通じた楽しみが充実しており、食事は全て各ホームで手作りされている。バイキングでは個々の好みを聞き、メニューを料理の皿に付けわかりやすくするなどの工夫がされている。出前や外食、地域住民も共に参加する祭も実施し、家庭的な環境の中で、楽しみ・役割・喜びを実践している「暮らし」を大切にしたい事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エルーセラ独自の理念は、見やすい場所に掲示し、日々取り組み実践している。	理念はグループホーム各玄関に掲示してある。理念から掘り下げた具体的なケアについての指針があり、定期的な勉強会を通してケアを深めている。職員一人ひとりが事業所の理念を十分理解し、ケアをする上での拠り所として大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域活動に参加することは困難だが、グループホームの祭りや運営推進会議に地域の皆様に参加され、親睦が深まった。	年間行事の一つに秋祭りがあり地域の方が多数参加している。開所して約15年経過、地域の方とも馴染みの関係があり、掃除・ゴミ集めへの参加もしている。事業所で栽培した花の苗を配る交流もある。	掃除など、地域の活動に事業所として参加している。今後は職員のみでの参加だけでなく、住民の一人としての役割参加という点で利用者自身も共に関わることへの工夫に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、地域の人々に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、家族や地域の皆様等と話し合いを行い、意見や希望を取り入れている。	事業所活動状況や利用者の状況等を詳細に報告しこれについての助言を受けたり、地域交流促進のための話し合いを定期的に行っている。介護についての相談を受けることもあり事業所からの助言も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者のアドバイスを受けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者は運営推進委員会の参加があり、またそこの議事録は報告書にて随時、市町村に提出している。介護保険制度に関し、不明な点は相談できる協力関係が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと言う事を全職員が認識し、身体拘束のないケアを行っている。	全職員は身体拘束の具体的な行為を理解している。被害的な妄想が強い方には、管理者が中心となり、症状の原因をひもときながら、利用者が抱えている根本的な不安や混乱の要因をアセスメントし環境整備や生活の工夫をすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の判断に任せている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し、理解や納得のいくまで分かりやすく十分な説明を丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、より良いケアを目指し、利用者からの意見等を迅速に適宜対応している。	家族には面会時や運営推進委員会の出席、電話等で状況の報告をし、意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。利用者からは、その方が生活をしやすい工夫として意見を取り入れ、安全性を考えながら、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が優しい気持ちで接する為に、悩み事やストレスを解消出来る様心掛けている。	管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を月に1回定期的に設けている。法人としては、職員旅行に旅費を援助する体制があり、宿泊や日帰り旅行を実施し、ストレス解消できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度の全体会議(幹部会議)にて、話し合いの場を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への確に助言出来る様定期的に勉強会は行なっている。また、研修は交代で受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	必要に応じて交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴する姿勢をとり、安心して訴えられるよう落ち着いて聴くことを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	誠実な態度で接し、何事も気兼ねなく話せる雰囲気を作り、優しく傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、健康状態等を吟味しながら分かりやすく説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で良い点を見出し、一緒に楽しみ助け合って日々暮らせる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人の意見を尊重し、気兼ねなく何でも話し合えるようなアットホームな雰囲気の中で、1人1人が楽しく生活出来る様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に添って対応している。	日常散歩の途中に、犬の世話を引き継いでくれている近所の方宅や自宅に立ち寄り愛犬に会ってきたりなど、本人との関係性が途切れないよう支援している。また、利用者の中には、本人が家族へ手紙を出し秋祭りの連絡を行っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を把握し、1人1人に合わせながら生活意欲を向上することで、仲間同士で支え合える生活が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人1人の求めている事を把握し、対応している。	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情などから汲み取り真意を推したり、それとなく確認する等、本人の意向の把握に努めている。また、本人の「つぶやき」を大事にし受けとめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者主体の目標を立て、具体的な内容を決め、サービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が意見を取り入れ、暮らしやすいように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に入居者・家族の意見を反映し、相談しながら作成。介護計画期間を明示し、その期間が終了する際に見直しを行い、状態変化に応じて適宜見直しを行なっている。	本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人や家族・関係者と相談しながら作成している。計画の見直しは期間終了だけにとらわれず、適宜見直しが行われ現状に即した計画書となるよう柔軟に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させる為、個別の対応を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の意見を尊重しながら家族の要望を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食・お花見・行事等に参加したり、ボランティアによる歌や踊り等を一緒に楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には家族や職員が同行する。家族が同行できない場合には受診結果を家族に報告し、状態変化時や異常発生時に対応している。	利用者全員が本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。家族付き添い時は、普段の様子や変化を書面にして家族に渡したり、必要に応じては職員が受診の付き添いも行い結果を家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に状態観察を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、個々に応じて病院関係者との情報交換や相談に努め、退院の連絡報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が状態を把握し、変化時の対応の話し合いを持ち、病院受診時には家族と相談の上方針を決めている。	入所時に、終末期に向けた方針については家族から聴き取りをしているが、状況変化に応じた話し合いを、早い段階から管理者が主体となり行っている。本人や家族の意向を踏まえ安心して納得した最期を迎えられるよう、医師・職員が連携して行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我等の緊急時に、職員は応急手当を行なうことができる様勉強会等を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間では連絡網にて協力し合える環境ができている。地域の方にも協力が得られるように取り組んでいる。	一昨年、全棟にスプリンクラーを設置、IHの調理器具も導入している。食糧や飲料水、排泄物品の備蓄も確保してある。消防署関連の協力を得て年に2回避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、入居者1人1人の留意事項を職員全員が把握し、言葉かけや対応に気をつけている。	「個人のケアを重視する」という事業所理念は、個人の尊重への支援ということで職員にも浸透し、本人の気持ちを大切に考えたケアを行っている。また、筆談を取り入れることで、意思表示を汲み取る工夫も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者1人1人の性格に合わせ、意思や希望を表現できる様働きかけ、自己決定出来る様な場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人1人が自由に自分のペースを保ちながら暮らせる様支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った髪形を聞き散髪を行なう。本人・家族の強い希望で行きつけの美容室があれば、家族の協力を得て行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のレベルに合わせ、献立の工夫をしながら準備・片付けの声掛けをしている。	美味しいもの楽しく食べるという意図的な心掛けが事業所にあり、職員も同じものを一緒に食べることで、旬の味覚を共有している。月に一度利用者から要望を聞き、職員が手作りしたご馳走をバイキング形式で提供するなど、食の関心を引き出す工夫をしている。テーブル拭き、食器の片付け等、利用者の役割分担もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の指示のもと、毎食バランスの取れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的に支援している。歯磨き・義歯洗浄・出血のチェックを毎日行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄誘導介助や失禁有無の確認等を、精神面での不安・羞恥心・プライバシーに配慮して行なっている。	プライバシーに配慮しながらその方の排泄パターンを把握し、トイレで排泄をするということを大切にしながら支援している。紙おむつから紙パンツになり、普通の下着を使用するようになった方も居て、一人ひとりの状況を把握し、常に見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士と話し合い、運動や飲食物等の工夫をしながら排便チェックを行い、困難時には内服薬を使用し、便秘予防に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理をせず、1人1人個別の入浴対応をし、清潔保持に努めている。	本人や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴き相談しながら、個別の入浴支援を行っている。また、シャワー浴しかできなかった方が浴槽に入れるようになり、本人の生活の質も向上できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者1人1人の睡眠パターンを把握し、個々の生活リズムを作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用する薬の目的や副作用・用法・用量を把握し、医師の指示の元服薬出来る様管理しながら、症状の変化を常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・テレビ鑑賞・洗濯物たたみ等、入居者1人1人が楽しみながらホーム内の役割が出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩等は適宜いい、外食・お花見等は本人の希望を聞きながら行なっている。	外食やお花見等、企画や行事での外出だけではなく、家に残した愛犬に会いに行くような本人の思いに沿った外出の支援も行っている。また、常時広々とした敷地内の散歩には出かけられるようになっており、戸外で気持ちよく過ごせる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て個々に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の草花の種をまき、ホール等のディスプレイを職員と入居者で共に行い、季節感を出している。	ホールは天窓が施され、明るい環境である。築年数を感じられないほど清掃が行き届き清潔で気持ちよく快適な空間である。特に台所が整頓され使い勝手の良さを感じる。シンボルツリーに季節感を取り入れており、四季を感じる工夫が見られ居心地よく過ごせる配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールにテレビを設置。他館にも自由に行き来ができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた生活用品等を持ち込み、安心して過ごせる様にしている。	居室はベットと箆笥が備え付けであるが、趣味で描いた絵画や書が飾られ本人の生活が感じられる。思い出の写真や静かに手を合わせられる空間も職員と本人で相談して作り、本人の安心できる居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせ、安全に生活出来るよう支援している。		